

— 学校情報 —

令和5年5月1日

パリ総合美容専門学校千葉校

パリ総合美容専門学校千葉校の情報公開

- 公開 1 学校の歴史と現況
- 公開 2 授業の取り組みについて
- 公開 3 教育課程編成委員会
- 公開 4 学校関係者評価委員会
- 公開 5 自己評価
- 公開 6 学校関係者評価

公開 1 学校の歴史と現況

(1) 学校名

学校法人パリ国際学園 パリ総合美容専門学校千葉校

(2) 所在地

千葉県千葉市中央区長洲1丁目15番地12号

(3) 沿革

1931年4月	千葉県千葉市のパリー美粧院内に、上野世津が美粧講習所を設置
1943年12月	太平洋戦争下の電髪禁止令により美粧講習所を閉鎖
1946年4月	上野光蔵により、千葉市にパリー美粧学院を設置
1947年4月	千葉県知事公認指定取得
1948年4月	パリー美容女学校に校名変更
6月	財団法人パリー美容女学校設立
1949年7月	美容師法による、厚生大臣指定美容師養成施設の認可を取得
1952年12月	理事長兼校長に、上野世津就任
1954年4月	通信課程併設
1955年4月	夜間課程併設
1963年3月	夜間課程廃止 各種学校から専門学校へ移行
1978年4月	財団法人パリー美容専門学校に校名変更
1982年10月	北島吉春、理事長に就任
1992年4月	現在地に校舎移転
1998年4月	厚生大臣による美容師法改正に基づく美容師養成施設としての指定を受ける 修業年限変更
2000年4月	高等課程（夜間部）再設置
2007年4月	学校法人パリ美容国際学園に法人変更 パリ総合美容専門学校千葉校に校名変更 櫻井美津、校長就任
2012年4月	高等課程（午後部）併設
2014年3月	夜間課程廃止
2017年4月	学科変更 ・ 専門課程 総合美容科 ・ 専門課程 一年制トータル科 ・ 高等課程 総合美容科 ・ 通信課程 美容科

(4) 学科の構成（令和4年現在）

専門課程	総合美容科
	一年制トータル科
高等課程	総合美容科
通信課程	美容科

(5) 学生数及び教職員数（令和5年5月1日現在）

●学生数

- ①専門課程 総合美容科 1年 62名 2年 56名
- ②専門課程 一年制トータル科 15名
- ③高等課程 総合美容科 1年 21名 2年 18名
- ④通信課程 美容科
 - サマーコース 1年留年生 1名 1年 13名 2年 20名 3年 8名
 - イブニングコース 1年 17名 2年 12名 3年 9名
 - ワンデーコース 1年 27名 2年 13名 3年 16名
 - 上記以外通信休学者 9名

●教職員数

- ①専門課程
 - 本務者 11名 兼務者 6名
- ②高等課程
 - 本務者 2名 兼務者 1名
- ③他職員 6名

(6) 学生納付金

(単位：円)

	初年度	二年度	三年度	合計
専門課程 総合美容科	921,000	777,700	-	1,698,700
専門課程 一年制トータル科	1,000,000	-	-	985,000
高等課程 総合美容科 ※	921,000	747,700	-	1,668,700
通信課程 サマーコース ※	310,000	210,000	210,000	730,000
通信課程 イブニングコース ワンデーコース ※	340,000	240,000	240,000	820,000

※の課程は、中学卒業者の場合は+10,000円（初年度に納入）

(7) 学生支援

①長期分割納付制度

通常納付が困難な学生に対し、本校独自の『長期分割納付制度』により支援している。
支払い期間は最長 5 年間、事務手数料は利息に換算して実質年 3%。

②在学中の利息補助

外部の教育ローンにおいて『在学中のローン返済据置制度』を利用した際の利息を補助する。

③シェアハウスの設置

個人部屋でシェアハウスは水道光熱費および共益費込みで月額 20,000 円とする。ベッド・テーブル・収納棚・冷蔵庫が完備、洗濯機・洗面台・トイレ・シャワールーム・キッチンが共有スペースとする。

④家賃補助

本校のシェアハウスを利用せず、1 人暮らしを目的としてマンション・アパートを借りた場合、毎月家賃の 30%相当を補助する。（上限 18,000 円）
補助人数は 20 名まで、対象者は実家から学校間の片道が 2 時間以上要する方。

基本理念

(1) 教育理念

校是

- 若き日に基礎・基本を鍛えよ
- 若き日に知識・技術を鍛えよ
- 若き日に精神力を鍛えよ

校是を開校以来の基本的教育理念とする。この基本の上に即戦力となるための応用技術・知識を修得し、加えて心身を鍛え美容界に貢献できる人材の育成を目的とする。

(2) 教育方針

1. 美容師養成課程における授業がまさに教育理念の「基礎・基本」である。この基礎・基本を試すのが美容師国家試験であり、本校の合格率はその成果を表している。
2. 応用技術・知識の修得で本校独自のものとして誇れるのは、都心の有名美容室のトップスタイリストたちが最新の美容技術を教えるゼミナール（職業実践教育）である。

重点目標

(1) 重点目標

美容国家試験に受かるための基礎力に加え、卒業後の現場で役立つ応用力を学ぶことで総合的な力を身に付ける。

『美のプロフェッショナルとして生きる力』を鍛える為、美容に関する知識や技術だけでなく、コミュニケーション力や表現力などを磨く教育を重視している。

(2) 取組状況・成果

取組状況

①学科科目

- ・技術や接客マナーを裏付ける理論を大切にしている。

②美容実習

- ・美容師国家試験に合格する為の実習カリキュラムの他、フォトコンテストやヘアショーなど、発想力と表現力を養う実践的な授業を行っている。
- ・現役で活躍する技術者を講師とする授業を取り入れることにより、最新技術や接客態度まで取り入れた、生きた教育を行っている。
- ・選択授業を多く用意し美容師として必須技術以外の科目を学ばせることにより、就職の幅と、美容サロン就職後の活躍の場を増やす試みを行っている。

③学生生活

- ・就職ガイダンスを年に2回行うことにより自己の将来を見つめさせ、生徒の就職意欲を高めている。
- ・企業と連携し課外授業やサロンワーク練習を行うことで、就職後のビジョンを明確にさせる。

成果

- ・就職希望者の高い就職率を継続している。
- ・美容師国家試験合格率は、全国平均を大きく上回ることができた。
- ・令和4年度後期国家試験の学科の合格率は、専門課程・高等課程の合格率100%を達成できた。同期の通信課程の合格率も96.0%であった。

(3) 課題

- ・国家試験合格率100%を目指す。

(4) 今後の取組

国家試験合格率100%を目指すにあたり

- ・実技に関しては、タイム内での終了や完成度については毎年美容師国家試験合格圏内まで満たしていると思われる。しかしながら、教材の出し忘れや扱い方について、緊張から来るミスによるものが問題視されているので、その指導に一層力を入れていく。
- ・学科に関しては、多くの学生が苦手意識を持つ化粧品化学や新課題の運営管理、文化論の国家試験対策授業の内容を改めていく。
- ・海外からの入学者が増えてきているので、日本語が複雑な文言や用語が多く出題される学科を強化し、早期に個別の問題点を見つけ克服を目指す。

公開 2 授業の取り組みについて

(1) 美容師国家試験の結果

美容師試験は、基礎基本が修得されているかを試す重要な試験である。

美容師試験の合格率(新卒)			
	実技	学科	全国平均
令和4年度47回	100%	100%	88.5%

(2) 美容師国家試験対策として

現在の動向

- ① 美容師国家試験の課題発表後、生徒に対し試験と同じ合格基準を以て約4回（追試を含むと6回）の実技試験を行っている他、通常授業に対しても試験同様に臨ませている。
- ② 生徒が自主的に、あるいは教員から見て不安のある生徒は、放課後・休日を利用し教員と共に練習を行う。集中的に指導するためにクラス分けをした徹底指導で、全生徒の実技・学科を合格基準以上に引き上げている。

改善点

- ① 前回の美容師国家試験の結果を踏まえ、失格者や不合格者が出ないように、早めの段階で対策の指導と心構えも含め、国家試験に使用する教材の最終確認にさらなる注意を配るようにする。

(3) 授業学科について

現在の動向

- ① 美容師国家試験に合格する為の実習カリキュラムの他、フォトシューティングやヘアショーなど、発想力と表現力を養う実践的な授業を行っている。
- ② 全国屈指の美容室 ELICA のヘアアレンジ、トニーズメイクの授業などを取り入れることにより、特定の美容技術に特化したプロによる外部講師の技術指導を取り入れている。
- ③ 有名店 apish の現役美容師を講師とする坂巻ゼミ、一般社団法人日本まつ毛エクステンション認定機構まつげエクステンションなど、通常授業と同じく技術に特化した講師による選択授業を多く用意している。美容師として必須技術以外の科目を学ばせることにより、就職の幅と、美容サロン就職後の活躍の場を増やす試みを行っている。

改善点

- ① 施設整備に重点を置き、更なる衛生管理と生徒の学習意欲増進を図る。

公開 3 教育課程編成委員会

令和4年度委員名簿

委員	所属企業・団体名	役職名	概要
大串 哲史	株式会社 オオクシ	代表取締役	県内に美容サロンを 51 店舗 以上展開
松原 正左右	有限会社 ビューティマツバラ	会長	県内に美容サロンを 3 店舗展開
桜井 靖浩	美容協同組合 日本ヘアデザイン協会	副理事長	協会の事業内に美容界の次代を 担う人材の育成も挙げている
櫻井 美津	パリ総合美容専門学校 千葉校	校長	
櫻井 秀文	パリ総合美容専門学校 千葉校	副校長	

◆ 令和 4 年度第一回学校関係者評価委員会

1. 開催日時 令和4年9月16日（金）午後5時～7時

2. 議題

- ① オンライン授業について報告と検討
- ② 前年度の国家試験について報告
- ③ 千葉県及び関東地区の全国理容美容学生技術大会の結果について

3. 経過及び結果

① オンライン授業について報告と検討

前回の教育課程編成委員会で意見があがったオンライン授業について、校内で検討をすすめ、昼間課程全クラスの学科で実験的に取り入れていることを報告した。オンライン授業についての資料を配布し、授業方法について委員会の意見を求めた。

「校内で検討した注意点は細かく考えられていると思う。理解が遅れてしまう学生についてリアルタイムでのフォローは可能か」との委員からの質問に、学校側は「オンライン授業中は担当が画面で学生の様子を見ることになっているので、個別対応で声掛けをしていく」と応答した。また、「小テストをこまめに行い、その結果で補習や個別対応をしてみても」との意見もあがり、「小テストを行うことで授業進行に遅れが生じる可能性があるのですぐに取り入れることが難しい。校内で検討する」と答えた。

② 前年度の国家試験について報告

令和 3 年度後期美容師国家試験の合格率を報告した。前回検討した学科対策の結果として、全課程の学科の合格率は 100%だったことを報告した。委員から今年度の授業の工夫について質問があり、学校側から「今年度は姉妹校の柏校と協力した授業も行い、学生の技術力の向上と安定を目指している。専門 2 年の担任は去年度も国家試験受験クラスを担当しているため、去年のノウハウを活かして国家試験の指

導を行うことができる」と応えた。

③ 千葉県及び関東地区の全国理容美容学生技術大会の結果について
今年度千葉県理容美容学生技術大会の出場人数は 12 名、入賞人数は 3 名であったことを報告した。また、全国理容美容学生技術大会関東地区大会では、カット部門で 1 名が敢闘賞を受賞したことを報告した。
今年度は現役美容師を講師として招き、練習に励んだ旨を報告した。

◆ 令和 4 年度第二回学校関係者評価委員会

1. 開催日時 令和4年12月12日（月）午後5時～7時

2. 議題

- ① 実践教育授業について見直しと検討
- ② パリ美杯について

3. 経過及び結果

① 実践教育授業について見直しと検討

今年度の授業内容の中で実践的な授業についてピックアップした資料を配布し、説明を行った。『美容学校に入ったからと言って、美容師に向いているとは限らない。パリ美は学生のうちに色々な美容技術試せるので、本当にやりたいこと、向いていることが改めて見つけられる学校。美容師以外の道に簡単に進めることがパリ美の長所』『一人ひとりの可能性を上げられる学校。色々な技術を知った上で納得して就職できるから離職者の軽減につながる』と委員からの発言があった。これに対し、学校からは『実際に美容師を目指して入学し、まつエクサロンなどに就職する学生は多い。美容師でありながらこの技術もあの技術もできるという技術者になって自分自身の価値を高めて欲しいし、一生食べていける自分に合った技術を見つけて欲しい』と答え、授業に取り入れる新たな美容技術の提案を委員に求めた。

② パリ美杯について

今年度初めて行われた姉妹校の柏校との合同コンテスト、パリ美杯の開催について説明を行った。委員からは『コロナ禍で未だに外部コンテストの休止が多い中、学生のモチベーションアップにつながる素晴らしい企画だった』『招待されたり採点に参加するサロンもあり、企画を通して頑張る学生と関わることが嬉しかった』『この学校の力強さが際立つ大会だった』などの意見が出た。

公開 4 学校関係者評価委員会

令和 4 年度委員名簿

委員	所属企業・団体名	役職名	概要
大串 哲史	株式会社 オオクシ	代表取締役	県内に美容サロンを 51 店舗 以上展開
松原 正左右	有限会社 ビューティマツバラ	会長	県内に美容サロンを 3 店舗展開
桜井 靖浩	De・dore.c.o.	代表	都内に美容サロンを 4 店舗展開

◆ 令和 4 年度第一回学校関係者評価委員会

1. 開催日時 令和4年9月16日（金）午後7時～9時

2. 学校関係者評価結果

1. 教育理念・目的・育成人材像

毎年一貫した教育理念、育成人材像をもとに授業の組み立てや指導を行っていることを説明した。委員からは「③と⑤については、美容業界の方々と情報交換を密にしていることで流行を捉えた授業となっている」との意見があったが、「④についてさらに周知の努力が必要であると思う」との意見もあがった。

2. 学校運営

規定に沿って適切に運営していることを説明した。この項目について委員からの質問や意見はなかった。

3. 教育活動

教育活動については上記 1.教育理念・目的・育成人材像に基づいて積極的に取り組んでいることを説明した。委員からは「⑩⑪については校内の教員の質も確保できていると思う。さらに現役で活躍する人材を講師とする授業が複数あり、流行にフィットした技術が学べる柔軟な学校であると思う」との意見があった。⑭について委員から改善策について質問があがったが、学校側より「去年度までは新型コロナウイルスの影響で中止になる研修が多かった。今年度も 7 月頃に出席予定の研修の中止があったが、研修の参加には意欲的である」と説明があった。

4. 学修成果

今年度の動きについて結果と予定を説明した。委員からは「退学者数の少なさとその理由で生徒に対する思いやりが伺える」「就職するための学校なので、希望者の就職率は 100%を継続できることがやはり望ましい」との意見があった。学校側よりさらなる就職支援対策を校内の課題とすると説明した。

5. 学生支援

現状と今後の卒業生への求職支援体制の強化案について説明をした。この項目につい

て委員からの質問は特になかった。

◆ 令和4年度第二回学校関係者評価委員会

1. 開催日時 令和4年12月12日（月）午後7時～9時
2. 学校関係者評価結果
6. 教育環境
 - ①「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」について、保健所と千葉県からの連絡のもと、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行い、設備を整えていることを報告した。また、今後はオンライン授業も活用していく計画があることを報告した。
 - ③「防災に対する体制は整備されているか」についても、学校外で研修等を行う際は、万が一の災害を意識し、教員で避難経路等の情報を共有していることを報告した。
7. 学生の受け入れ募集
 - ②「学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか」について、委員より「正確ではあるものの情報の発信力不足ではないか」との意見があり、学校側からは自己評価でも課題の1つに挙がっていることを説明した。委員からインスタグラムやホームページの利便性や有効な使い方についての説明があったため、学校側は広報部門と情報を共有することとした。
8. 財務
 - ③「財務について会計監査が適正に行われているか」、④「財務情報公開の体制整備はできているか」について、例年通り財務諸表や監査報告書をホームページ上に公開している旨を説明した。
9. 法令等の遵守
 - ①「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」について、定期的に千葉県より監査を受け、適正に運営していることを報告した。
10. 社会貢献・地域貢献
 - ①「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」について、例年は中学校などを対象とした『仕事の学び場』に参加していることを報告した。③「地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか」については、教育訓練で社会人を受け入れていることを報告した。

公開 5 自己評価表

パリ総合美容専門学校千葉校 自己評価表

1. 教育理念・目的・育成人材像

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
② 学校における職業教育の特色は何か	4
③ 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
⑤ 各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか	4

● 現状

- ・①について、明確に定め周知している。教職員も把握した上で、学生への指導を務めている。
- ・④について、周知方法として校是をロビーに掲示、人材育成像などを HP・パンフレットに掲載している。
- ・⑤について、メインとなる教育目標・育成人材像は確固としているが、美容業界の動向を機敏に捉え、求められる人材や美容技術のニーズを把握して授業に反映させている。

2. 学校運営

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
④ 人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
⑥ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

● 現状

- ・②について、毎年事業計画を掲げ、それに則り計画的に学校運営を行っている。
- ・⑦について、ホームページ上で誰でも閲覧できるように公開し、毎年更新を行っている。
- ・⑧について、今年度より WEB 出願システムを取り入れ、業務のさらなる効率化を図った。

● 課題と今後の改善策

- ・⑧について、システムを取り入れ効率化を改善できる余地はあるが、急は要さない。

3. 教育活動

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
⑥ 関連分野における実践的な職業教育（連携による実習）が体系的に位置づけられているか	4
⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか	4
⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
⑬ 資質向上のための取組が行われているか	4
⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

● 現状

- ・②について、修業年限・学習時間は養成施設指定規則に基づき設定し、県が審査を行う学則に記載されている。
- ・③について、毎年シラバスを見直して作成し、シラバスに則って計画的に授業が行われている。
- ・⑨について、客観的に明確化した基準を設置し、一部内容を HP 上に掲載している。教員は熟知し、共有している。
- ・⑪について、より円滑に効率よく業務を行えるよう、教員の求人中である。
- ・⑫について、個別の能力について、美容サロン経営経験者や長期美容従業の経験者、美容の上級資格保有者などの技術・指導力の高い質を備えた教員が従事している。
- ・⑭について、一昨年度に引き続き、去年度も新型コロナウイルスの影響で外部講習にはオンライン参加がメインとなった

● 課題と今後の改善策

- ・⑭について、より多くの教員が研修を受ける機会を設け、スキルアップを目指していく。

4. 学修成果

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
① 就職率の向上が図られているか	3
② 資格取得率の向上が図られているか	4
③ 退学率の低減が図られているか	4
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

● 課題と今後の改善策

- ・①について、就職ガイダンスを定期的に行い、就職に対する意識を高める努力を行っている。また、卒業後の離職者率を抑えることを目的とした、現役美容師から働き方・心得を学ぶ授業、社会労務士による優良企業についての授業も実施している。
- ・②について、去年度の後期国家試験の学科の合格率は全課程で100%であった。実技については一昨年度の合格率が100%であった。今年度は双方の改善点を取り入れて指導を行う。
- ・③について、退学の相談を受け次第、保護者とも連携を取り、早急に対応している。問題点が生じていれば改善を行っている。美容業への進路選択の可能性を残すため、まずはコース移動や休学を奨めている。実際にコース移動者・復学者数は多く、そのほとんどが無事に卒業しているため、退学率が抑えられている傾向にある。
- ・④について、今年度より卒業生の活躍をリアルタイムにピックアップした情報ページをHP内に掲載している。今後も継続していく予定である。

● 課題と今後の改善策

- ・④について、同窓会の類の卒業生が情報交換を出来る場を設け、卒業生の動向・評価・活躍について現状よりさらに多くの情報を把握し、本校の授業内容の見直しにも役立てたい。

5. 学生支援

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
② 学生相談に関する体制は整備されているか	4
③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか	4
⑦ 保護者と適切に連携しているか	4
⑧ 卒業生への支援体制はあるか	3
⑨ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

● 現状

- ・①について、進路担当を定め、担任と連携した就職支援を行い、希望者の就職率100%を

目標に指導している。卒業後にも求人票の閲覧が可能ないように整備されている。

- ・②について、担任・事務などが学生に対する声掛けを心がけており、相談しやすい体制を整えている。相談は内容に応じて共有し、適正に学生対応をしている。
- ・③について、校内では長期分割納付制度、分割制度を設けている。相談があった際には、上記の他、日本学生支援機構の貸与奨学金・給付奨学金の案内を行い、経済的に通学が困難な学生の負担を軽減する努力をしている。
- ・④について、毎年健康診断を行っている。また、登校時に体温チェックを行い、表で管理し、新型コロナウイルスの予防を行っている。
- ・⑥について、遠方から入学する学生に対し、本校で用意した部屋に住むことが出来るシェアハウス制度、一人暮らしをする学生に対する家賃補助制度を設けている。（利用人数に限りあり）
- ・⑦について、不安を持つ保護者と密に連絡を取り合い、学生に対して適切にフォローや指導を実際に行い、悩みの改善と不安の軽減を図っている。
成績や出席状況、就職活動などでも必要に応じて面談も行っている。
- ・⑧について、卒業後であっても、求人票の閲覧が可能である。また、国家試験不合格者が再受験するための講習なども設けている。
- ・⑨について、要望があれば美容業についての授業を行っている。● 課題と今後の改善策
- ・⑧について、今後はより一層整えていく必要がある。

6. 教育環境

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4
③ 防災に対する体制は整備されているか	3

● 現状

- ・①について、定期的に県の監査・指導を受け、適切に整備されている。エステ機器やシャンプー一台など、美容業界のニーズに沿った設備を整えている。
- ・②について、校内の実習室は、美容技術を習得するために必要な施設を揃え、十分に整備されている。インターンシップは現在行っておらず、海外研修もコロナ渦で中止しているが、校外実習の際の施設は、安全性や実習内容に適正な設備かをよく調査した上で計画と授業運営を行っている。
- ・③について、防災責任者を定め、防災訓練を毎年行っている。

● 課題と今後の改善策

- ・③については、災害のパターン別に訓練を行う、教職員に対して誘導方法などの講習を定期的に行うなど、万が一に備える必要がある。

7. 学生の受入募集

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
① 学生募集活動は、適正に行われているか	4
② 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	4
② 学生納付金は妥当なものとなっているか	4

● 課題と今後の改善策

- ・①について、募集活動専門の広報部署を設け、学生受け入れ人数など定められている学則に沿って適切に行っている。
- ・②について、ガイダンスやオープンキャンパスなど、取得できる資格、卒業生の就職先、国家試験の合格率など、正確に伝えている。パンフレット・HP・SNS に掲載し、周知している。
- ・③について、本校の学生納付金は、県の審査を受けた学則に則った適正な金額である。

8. 財務

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
③ 財務について会計監査が適正に行われているか	4
④ 財務情報公開の体制整備はできているか	4

● 現状

- ・①について、学校法人全体で安定している。
- ・②について、理事会・評議会で決定がなされ、妥当なものとなっている。
- ・③・④についてホームページ上で公開している。

9. 法令等の遵守

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
③ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
④ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
④ 自己評価結果を公開しているか	4

● 現状

- ・①について、定期的に県から監査・指導を受け、指摘事項の改善に努め、適切に運営している。
- ・②について、個人情報を扱う部署を限定し、書類は保管場所の施錠を行っている。
- ・③について、毎年実施している。教員は課題を把握・共有し、改善に取り組んでいる。
- ・④について、結果をHPに掲載している。

<以下は任意>

10. 社会貢献・地域貢献

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
③ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

● 現状

- ・①・②について、コロナ感染症が流行する以前は、地域のボランティア活動に貢献していた。コロナ渦が落ち着いた際には、再開する予定である。
- ・②に関して、社会人に対し職業訓練や専門実践教育訓練給付金などを実施している。

公開 6 学校関係者評価表

1. 教育理念・目的・育成人材像

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
② 学校における職業教育の特色は何か	4
③ 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
⑤ 各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか	4

2. 学校運営

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
③ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
④ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
④ 人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
⑥ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

3. 教育活動

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
⑥ 関連分野における実践的な職業教育（連携による実習）が体系的に位置づけられているか	4

⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか	4
⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
⑬ 資質向上のための取組が行われているか	4
⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

4. 学修成果

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
⑤ 就職率の向上が図られているか	4
② 資格取得率の向上が図られているか	4
⑥ 退学率の低減が図られているか	4
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

5. 学生支援

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
⑨ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
⑩ 学生相談に関する体制は整備されているか	4
⑪ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
⑫ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
⑬ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
⑭ 学生の生活環境への支援は行われているか	3
⑮ 保護者と適切に連携しているか	4
⑯ 卒業生への支援体制はあるか	3
⑨ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

6. 教育環境

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
⑤ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4

② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	3
③ 防災に対する体制は整備されているか	3

7. 学生の受入募集

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
① 学生募集活動は、適正に行われているか	4
② 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	3
③ 学生納付金は妥当なものとなっているか	4

8. 財務

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
⑤ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
⑥ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
⑦ 財務について会計監査が適正に行われているか	4
⑧ 財務情報公開の体制整備はできているか	4

9. 法令等の遵守

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
② 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
⑥ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
⑦ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
④ 自己評価結果を公開しているか	4

<以下は任意>

10. 社会貢献・地域貢献

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
③ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
④ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
③ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4